

担い手通信



第28号
平成26年11月発行

大仙市集落営農・法人化支援センター
大仙市大曲花園町1番1号 車庫棟2階
電話：0187-73-5830
FAX：0187-73-5831

今回のラインナップ

- 「稲作経営安定緊急対策資金」を新設
～米価下落に伴う緊急の資金需要に対応～
- 農地中間管理事業 受け手の公募(2回目)を行います
- 平成26年度パソコン農業簿記講習会開催決定のお知らせ
- 第7回大仙農業元気賞 受賞者の紹介

「稲作経営安定緊急対策資金」を新設 ～米価下落に伴う緊急の資金需要に対応～

秋田県では、今般の米の概算金の大幅な下落に伴い、減収が見込まれる農業者等を対象に、新たに無利子の融資制度を創設しました。資金を無利子で利用していただくことによって、農業経営の維持を支援します。

- 貸付対象者**：経営所得安定対策における米の直接支払交付金の対象者で、今般の米の概算金の下落に伴い、減収が見込まれる農業者、農業法人、集落営農組織
- 資金使途**：農業経営の維持・安定のため、当年または翌年の経営に必要な運転資金（既往負債の借換は除く）
〈対象となる経費の例〉
(1)種苗代、肥料代、農薬代、雇用労賃等の直接的現金経費
(2)小農具等の営農用備品、消耗品等の購入費
(3)営農用施設・機械の修繕費、燃料代、飼料代、地代（賃借料）等
- 貸付条件**：(1)実質金利：0%（無利子）※貸付利率1.65%は県及び融資機関が折半して負担します。
(2)貸付限度額：米価下落による減収見込額
※上限：個人500万円・農業法人等2,000万円
(3)償還期間：借入から3年以内（据置期間は設定しない）
(4)融資保証料：秋田県農業信用基金協会の保証料は、市が全額負担します。
- 申込・問合せ先**：JA秋田おぼこ農業協同組合、秋田銀行、北都銀行、羽後信用金庫
※上記の内容は今後変更になる場合があります。また、一部機関ではこの資金の取り扱いがない場合がありますので、詳細は金融機関へお問い合わせください。

〈農地中間管理事業〉

受け手の公募(2回目)を行います

農地中間管理機構に指定された公益社団法人 秋田県農業公社では、下記のとおり農用地の借受希望者（受け手）の第2回目の公募を行っております。農林振興課または各支所農林建設課等に「農用地等の借受希望申込書」を用意しておりますので、農業公社を通して農地を借り受けたい方は申し込みをしてください。

- 募集期間**：平成26年11月10日（月）まで
- 募集区域**：以下の8区域
旧大曲市、旧神岡町、旧西仙北町、旧中仙町、旧協和町、旧南外村、旧仙北町、旧太田町
- 備考**：農地中間管理事業を活用して、秋田県農業公社から農用地等を借り受けるためには、氏名等の公表に同意していただく必要があります。公表に同意していただけない場合は事業を活用できませんので、あらかじめご了承ください。

7月に実施した第1回目の公募で申込を行った方は、再度申込をする必要はありませんので、ご注意ください。

〈平成26年度パソコン農業簿記講習会〉

開催決定のお知らせ

大仙市では、秋田県農業会議との共催で、「平成26年度パソコン農業簿記講習会」の開催を下記のとおり予定しております。パソコンの台数に限りがありますので、受講を希望される方はお早めにお申し込みください。

- 開催期間**：平成26年12月4日（木）午後1時30分～午後4時30分
平成26年12月5日（金）午前9時～午後4時
※2日間続けての受講ですので、ご注意ください。
※昼食、飲物等は各自ご準備ください。
- 対象者**：複式簿記、青色申告に取り組む、又はこれから取り組もうとする認定農業者やその配偶者等（先着20名）
- 内容**：①ソリマチ「農業簿記9」を活用した演習
②青色申告と税務申告に係るポイントについて
- 申込先**：農林商工部 農林振興課
電話0187-63-1111（内線259）

～大仙市農業の若きけん引役として期待!!～ 第7回大仙農業元気賞に4人を表彰

大仙市内に居住する若手農業者で、先進的な取り組みに挑戦したり、地域や団体のリーダーとして活躍するなど、将来の大仙市の農業を担う方々を表彰するために制定した「大仙農業元気賞」も、今年度で7回目を迎えました。

今回の受賞者は、平成26年9月17日に開催された表彰選考委員会において、農業関係団体などから推薦のあった方々から次の4名に決定しました。また、10月15日には、大曲エンパイヤホテルで表彰式並びに受賞祝賀会が開催されました。



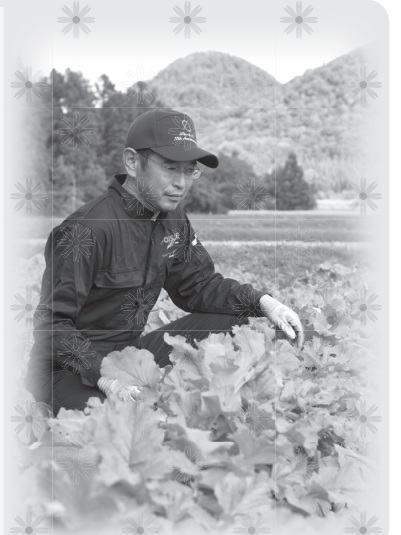
さ さ き かず のり
佐々木 和 則さん (昭和42年生まれ 大仙市土川)

高校を卒業後、国家公務員・地方公務員として勤務し、早期若年退職後の平成17年から就農しました。水稻・野菜・畜産と、バランスのとれた複合経営に取り組んでいます。

就農当時は切り花(ひまわり)を栽培していましたが、市場価格が一定ではなく経営が安定しなかったため、トマト栽培に切り替えました。現在はハウス5棟でトマト栽培を営み、消費者のニーズに対応できるよう安定的・継続的な経営を目指しています。

「地元農業へ貢献したい」という思いが強く、就農後も地域の若き担い手として尽力されています。また、高齢化が進む中山間地域におけるリーダー的な存在としての活躍も期待されています。

「地域全体のコミュニティの充実を図るキーマンになりたい」と話す和則さん。時代や情勢に応じた農業経営を目指しています。



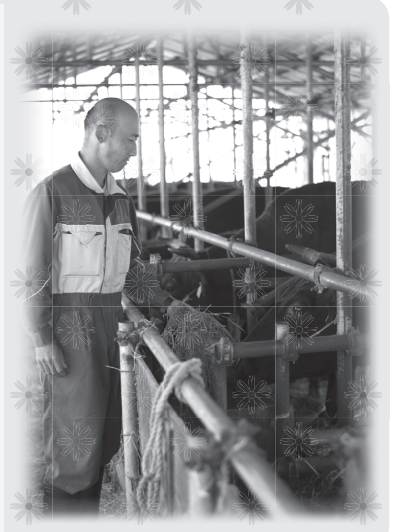
さ と う やす はる
佐藤 康 晴さん (昭和49年生まれ 大仙市神宮寺)

大学を卒業後、平成9年から就農しました。平成26年2月からは経営主として、水稻・畜産の複合経営に取り組んでいます。

畜産部門では、黒毛和種の繁殖牛を20頭、ホルスタイン種の乳用牛を2頭飼育。「家畜人工授精師」や「家畜受精卵移植師」の資格を活かして受胎率の向上や優良牛の確保に取り組み、安定した子牛の出荷を目指しています。

また、地元畜産農家で構成される神岡ホールクロップ生産組合に参画。機械のオペレーターとして、今年度は約60haもの面積を手がけており、作業の効率化や作業受託面積の拡大に大きく貢献しています。

「飼育頭数を増やして、畜産をメインにしていきたい」と話す康晴さん。将来は繁殖牛・肥育牛の一貫経営を目指しています。



さ と う と も はる
佐藤 智 治さん (昭和58年生まれ 大仙市協和中淀川)

大学を卒業後、家具に関する仕事に携わったのち、平成23年から農業経営を開始しました。現在は水稻と枝豆を栽培し、複合経営に取り組んでいます。

平成25年からは、米の消費拡大と6次産業化のため、協和地域ではほとんど作付けされていなかった酒造好適米に注目。地元の酒蔵である奥田酒造店と秋田県立大学、JA秋田おぼこ青年部協和支部が連携し、日本酒づくりのプロジェクト活動を実施しています。

遊休農地解消や地域農業発展のため、人・農地プランの中心経営体となり、高齢等を理由に営農が困難な農家から農地を借り受けるなど、地域農業の若き担い手として活躍が期待されています。

「需要に合わせた農業経営を目指したい」と話す智治さん。枝豆、酒造好適米の作付面積を増やし、農業経営の安定を図ります。



た か はし ゆう た
高橋 雄 太さん (昭和61年生まれ 大仙市太田町太田)

岩手県立農業大学校(花き学科)を卒業後、(有)高橋園芸においてリンドウの栽培について学び、平成21年から自宅にて就農しました。大学や研修先で学んだ技術を活かして主にリンドウの栽培に取り組み、父親(水稻主体)と経営分離を実践しています。

リンドウは18種類もの品種を手がけ、8月から11月にかけて継続して出荷できるよう、時期や気候に合った種類を選定、育成しています。また、就農当時は約70aだったリンドウのほ場が、平成26年度には約150aまで規模拡大されています。

JA花き部会(リンドウ部会)に所属し、若花会などの若手農業者の活動にも積極的に参加するなど、栽培管理や技術習得の収集に努めており、今後の農業をリードしていく農業者として期待されています。

約150aのほ場でリンドウ栽培を行う雄太さん。「もっと収益をあげ、通年雇用が可能となる農業経営を目指したい」と話します。

